

狂言学習を行いました（6年生）《NO.2》



【めあて】

- 前の人の演技をしっかりと見て、つなぐ。
- 狂言は、喜劇！
 楽しみとウキウキ感を出す。笑顔で楽しく演じる。

《『附子』の稽古より（続）》

●笑顔で、楽しそうに演じる！



『附子』をのぞき込んで、底が見えた瞬間に、「そりゃ退け、そりゃ退け。」と言う。

「イヤこれこれ」

- なぜ、さがるかという、（こんなとこまで来ている。えらい近づいてしまった）と、一瞬ドキッとした感じを表現する。しかも、『附子』の蓋が無い状態！
- 「イヤこれこれ」を生かそうとすると、前をリズムカルにするのがポイント。

太郎冠者や次郎冠者は、主人を主人とも思っていないかもしれない。最後に、主人の頭をたたくくらいだから。楽しいことが大好きだが、一人では何もできないが、二人だったら何でもできる。太郎冠者は、おもしろいことが大好きで、とんちもできる。このキャラクターを表現するように！

遊び心を表現する。怖いものを見に行く。怖さを克服する楽しさを表現する。



- ㊦「おのれ滅却しようぞ。」は呼びかける。
- ゆっくり食べる。←はじめは、『附子』がどんなものかわからない状態だから。
- ㊦「ああ、たまらんたまらん。」をゆっくり言う。
- ㊦「そりゃ、滅却しおった。」を早く言う。



《山口先生に褒めていただきました》

「ありがとう。私（山口先生）が求めているところをやってくれた。この二人が、楽しそうに！」



《山口先生に褒めていただきました》

「おもしろい！周りを和やかにする雰囲気がある！」
「引き合いもおもしろい。今の雰囲気がいいなあ。」

食べている時には、話さない。
●太郎冠者は、主人にムツとしている。「憎さも憎し」のセリフは、（全部食べてしもたれ）という思いで言う。
●引き合いをする時は、両サイド、いっぱいいっぱい使うといい。

- ⊕「それならば、・・・」を、大きい声で言う。
- 太郎冠者は、ずぶとい性格をしているので、次郎冠者を見ない。演じ手の目の動きは、観客からもよく見える。

- 太郎冠者と次郎冠者のお掛物の位置を合わす。
- 次郎冠者の「サラリサラリ、バッサリ。」で、バッサリの位置を見る。
- 太郎冠者は、お掛物と台天目の位置を確かめる。手の指す向きが違わず、説得力を出す。
- 太郎冠者が台天目を指す時には、ひざを使って指す。



●お茶碗を割るのは楽しいこと。遊びの楽しさを表現する。テンションを上げる。そのためには、語尾を上げる。

狂言は、コメディである。楽しそうに演じる。意識して笑顔を見せるのがポイント。



- 主人は楽しそうに颯爽と帰ってくる。颯爽と笑顔で戻る主人に対して、太郎冠者と次郎冠者が泣いていることで、主人の楽しさが消える様子を表現する。
- 「あれ、あのようにな・・・」の「あれ」で、間を取ると、主人が動きやすい。
- 太郎冠者と次郎冠者は、時代が時代ならば大変な事！一目散に逃げる。
- 自分のことばを観客に届ける。舞台と観客の一体感を感じてほしい。

